

## 令和5年度 小金井第三小学校 第2回学校運営協議会 記録

<日時>令和5年6月10日(土) 午前11時20分から午後12時20分まで  
<会場>4階家庭科室

出席者:12名中 12名参加(委員全員出席により本会成立)

### 1 開会の言葉および校長挨拶

○本日の道徳では、「愛校心」もしくは「ふるさと意識の向上」をテーマに各学年で授業を行った。

70周年に引き続き、継続的な指導につなげていくねらいがある。1校時には、学校懇談会を開催し、100名以上の保護者が集まってくださり、学校での取り組みや本日の授業について、学校長より説明した。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し1か月が経ち、授業では対話をしている様子も見られたのではないかと思う。徐々に日常に戻している。ICTの活用については、効果的な活用を目指し試行錯誤を続けている。道具としての活用を目指している。

### 2 報告及び協議

#### (1) 公開授業及び道徳授業地区公開講座

○机を前向きにして学ぶ姿が、期待していたものより多く意外だった。以前のように交流する姿に戻るにはもう少し時間がかかりそうだと感じた。

○家庭科の玉結びの活動で、タブレットを活用し、それぞれの進度に合わせ、またその子のペースで確認しながら作業できるようにしているのはとても良い取組だと感じた。

○4年生のごみの学習では、ごみ処理の方々が日々どういう気持ちで働いているのかを想像したり、皆で話し合ったりすることで、ごみの削減への意識を高められると感じた。とても良い。

○「地域愛」は人の顔が見えるような取組が大切。一緒に何かをやることで育つのだと思う。

○子供の声に耳を傾け、一人一人を受け止めている姿が素晴らしいと感じた。

○計算して一つの答えを求めるのではなく、答えが無数にあるというに対して、友達と工夫しながらいろいろな考えを出している姿が印象的だった。

○さまざまな活動を通していろいろな経験をし、そこから学んでいくことが大事だと思う。

○集団の中での自分の役割を工夫する授業を見て、大人の世界でも考えなければいけない話題だと感じた。理想的な流れだけでなく、多様な考えを交流するような学習にできると更に良い。

○教材を提示するモニターはもう少し大きい方が良い。

○インクルーシブ教育として、特別な支援を要する児童にどのような支援をしているのか知りたい。

○産休明けの先生も頑張っていた。女性の働きやすさを今後も大切にしてほしい。

○書写の学習で、「トン・スー・トン」と筆の動きを表現していて子供にとって分かり易かった。

#### (2) 5年大房岬移動教室実施報告

○経験により子供が成長することを実感した移動教室だった。

○宿泊先が変更になり、学年全部が一度に行けたことがよかった。現地の指導員も大変よくしてくれた。子供たちにいろいろな体験をさせたいという気持ちに溢れており、ありがたかった。

#### (3) 地域未来塾について

○コミュニティスクール2年目を迎え、地域学校共同活動の充実に力を入れている。本校では、まず、一年生を対象にした宿題支援の場である「三小てらこや」を始めた。2階目は参加者がぐっと増えた。スタッフも積極的でいろいろなアイデアを出し合いながら進めている。やりながら改善し、より良いものにしていきたい。

#### (4) 熟議について

○子供たちを取り巻く大人が小グループに分かれ、どのように子供たちを育てていったら良いかということをついで意見を出し合う機会をつくりたい。それを初めの一歩としたい。

○自分と周囲が違う価値観をもっていることに気づき、どのように折り合いをつけていけば良いか、考えるきっかけになると良いと感じている。学校、協議会の委員の皆様、PTA、地域の方に可能な限りご参加いただき進めていきたい。

#### (5) その他

○大林委員の辞任について。

### 3 事務連絡

○次回以降の学校運営協議会の予定の確認。

### 4 閉会の言葉(副校長)